

CentreCOM **FS808TP V1**

ユーザーマニュアル

安全のために



必ずお守りください

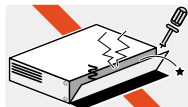


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 120V で動作します。
なお、本製品の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。



電圧注意

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る
不可

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

ご注意

本書の中に含まれる情報は、弊社（アライドテレシス株式会社）の所有するものであり、弊社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
弊社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。
また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2002 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
MS-DOS、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM FS808TP V1（以下、FS808TP V1）をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX ポートを 8 ポート装備したファーストイーサネット・タップスイッチです。

内蔵されたソフトウェアによって、ターミナルポートから簡単な設定が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2002 年 4 月 Rev.A 初版






2002 年 5 月 Rev.B 外形寸法変更

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン	意味
 ヒント	重要な情報や指示を示します。
 注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
 警告	人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
 手順	操作手順を示します。
 参照	参照ページ・参照項目を示します。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM FS808TP V1 を意味します。場合によっては、「FS808TP V1」のように「CentreCOM」を省略して表記します。

マニュアルの構成

本書の構成は以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 ソフトウェアの設定

本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

3 付録

トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

目次

安全のために	4
ご注意	6
商標について	6
電波障害自主規制について	6
このマニュアルについて	7
表記規則	8
マニュアルの構成	9
1 はじめに	13
1.1 梱包内容	14
1.2 特長	15
1.3 各部の名称と働き	16
上面・前面	16
下面・背面・右側面	18
1.4 設置	19
設置場所	19
マグネットによる取り付け	20
1.5 接続	21
ネットワーク機器を接続する	21
コンソールを接続する	24
VT-Kit を使用する場合	25
電源ケーブルを接続する	26
2 ソフトウェアの設定	27
2.1 ターミナルソフトの設定	28
VTTERM の設定	28
「ハイパーターミナル」の設定	29
2.2 メニュー設定	32
メインメニュー	32
設定画面の操作方法	33
ポート設定サブメニュー - Port Setting Menu	34
フローコントロール設定サブメニュー - Flow Control Menu	36
ミラーリング設定サブメニュー - Mirroring Setting Menu	38
工場出荷時設定にリセット - Factory Reset	42

デフォルト設定	43
3 付 録	45
3.1 トラブルシューティング	46
3.2 仕 様	48
コネクター / ケーブル仕様	48
本製品の仕様	50
4 保証とユーザーサポート	51
4.1 保証とユーザーサポート	52
保証	52
ユーザーサポート	52
4.2 調査依頼書のご記入にあたって	53
使用しているハードウェアについて	53
お問い合わせ内容について	53
ネットワーク構成について	53

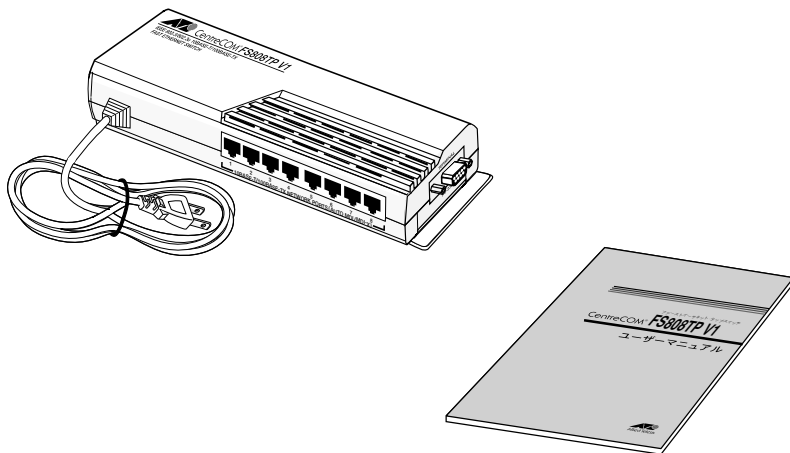
1

はじめに

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1.1 梱包内容

- CentreCOM FS808TP V1本体 1台



- ユーザーマニュアル(本書) 1冊

- 製品保証書 1枚
- お客様インフォメーション登録カード 1枚
- シリアル番号シール 3枚
- 製品仕様書(英文) 1枚

最初に梱包物の中身を確認してください。

本製品を移送するためには、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

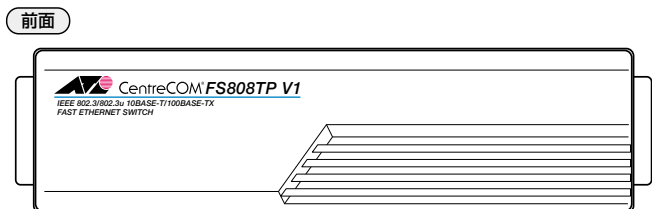
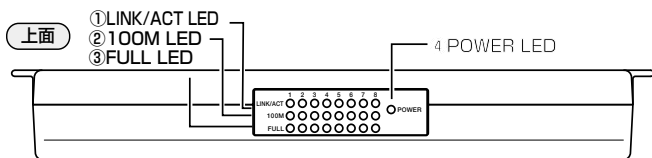
1.2 特長

- 小型・軽量のプラスチックボディ
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートを 8 ポート搭載
- オートネゴシエーション機能をサポート
- フローコントロール機能（Half Duplex 時＝ バックプレッシャー、 Full Duplex 時 IEEE 802.3x PAUSE）をサポート
- 全ポートに MDI/MDI-X 自動切替機能を搭載（*）、ポートの種別（MDI/MDI-X）やケーブルタイプ（ストレート/クロス）に関わらず接続が可能、またポートの種別（MDI/MDI-X）の固定設定も可能
- ポートミラーリング機能をサポート、特定の MAC アドレスを指定するミラーリングが可能
- RS-232 ターミナルポートから各ポート設定、ポートミラーリング設定が可能

* オートネゴシエーション選択時のみ有効。

1.3 各部の名称と働き

上面・前面



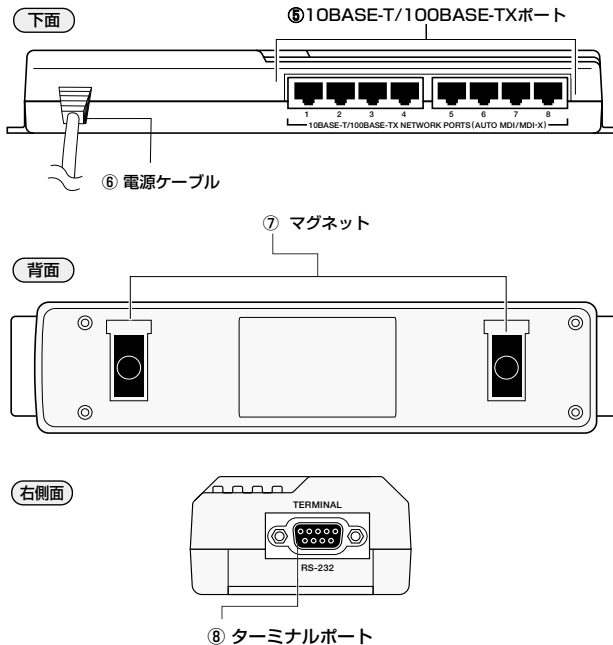
- ① **LINK/ACT LED**
各ポートのリンク、パケットの送受信状況を表示します。
 17ページ 「LED 表示」
- ② **100M LED**
各ポートの速度（10Mbps/100Mbps）を表示します。
 17ページ 「LED 表示」
- ③ **FULL LED**
各ポートのデュプレックス（Full Duplex/Half Duplex）を表示します。
 17ページ 「LED 表示」
- ④ **POWER LED**
電源の供給状態を表示します。
 17ページ 「LED 表示」

LED 表示

LED	色	状態	表示内容
LINK/ACT	緑	点灯	リンクが確立しています。
		消灯	リンクが確立していません。
		点滅	パケットの送受信中です。
100M	緑	点灯	100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。
FULL	緑	点灯	Full Duplexで動作しています。
		消灯	Half Duplexで動作しています。
POWER	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

1.3 各部の名称と働き

下面・背面・右側面



⑤ 10BASE-T/100BASE-TX ポート

100BASE-TX、または 10BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクタです。これらのポートは MDI/MDI-X 自動切替機能(*) とオートネゴシエーション機能をサポートしているため、ケーブルの種別 (ストレート / クロス) や接続先ポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わりなく、最適な通信速度 (10Mbps/100Mbps) と通信モード (Full Duplex/Half Duplex) を自動設定します。

* オートネゴシエーション選択時のみ有効。

⑥ 電源ケーブル

電源コンセントに差し込むためのケーブルです。

⑦ マグネット

デスクサイドやスチール製パーティションなどに設置するためのマグネットです。

⑧ ターミナルポート

本体とコンソールとを接続してソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは 9 ピンメスタイプです。ケーブルは RS-232 ストレートケーブルを使用します。

1.4 設置

設置場所

本製品を設定する場所については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 振動の多い場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本体前面をふさがないように設置してください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 指定された電源電圧（AC100-120V）以外で使用しないでください。

1.4 設置

マグネットによる取り付け

本体背面のマグネットを使用すると、本製品を簡単に金属面へ取り付けすることができます。



設置面の状態によってはマグネットの十分な強度を得られないことがあります。



指示

ケーブルの重みにより、機器が落下しないように確実に取り付けてください。落下により、ケガの原因となることがあります。



禁止

マグネットで機器を高所に取り付けしないでください。機器の落下により、ケガの原因となることがあります。



禁止

マグネットで機器を振動、衝撃の多い場所や不安定な場所に取り付けしないでください。機器の落下により、ケガの原因となることがあります。



禁止

マグネットで機器を OA デスクなどに取り付けたまま、機器をすらないでください。被着面の塗装などに傷がつくおそれがあります。



禁止

マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により、記録内容が消去されるおそれがあります。



禁止

マグネットをコンピューターやディスプレイなど、磁気の影響を受けやすい電子機器に近づけないでください。



マグネットの設置面によっては、内部の部品が磁束の影響を受け通信に不具合が起こる場合がまれにあります。その場合はマグネット設置面を変更するなどの対応を行ってください。

1.5 接 続

ネットワーク機器を接続する

ケーブル

ケーブルは 100BASE-TX の場合、カテゴリ 5 以上の UTP ケーブル、10BASE-T の場合は、カテゴリ 3 以上の UTP ケーブルを使用します。



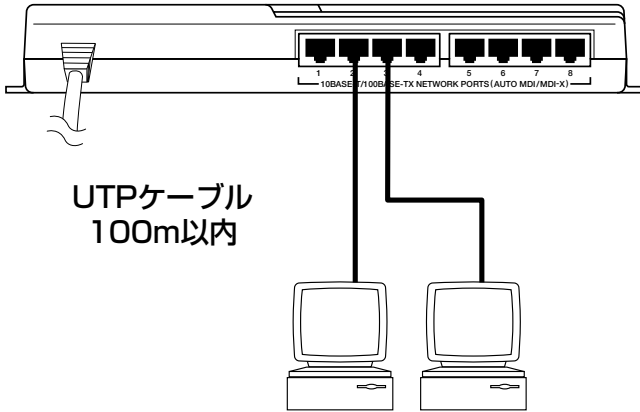
100BASE-TX にアップグレードするときに、余分な経費やトラブルが発生するのを避けるため、最初から、カテゴリ 5 以上のケーブルをご使用になることをお勧めします。

本製品とコンピューターを接続するケーブルの長さ、本製品と HUB やスイッチを接続するケーブルの長さはすべて 100m 以内です。

1.5 接 続

▶ スタンドアローン

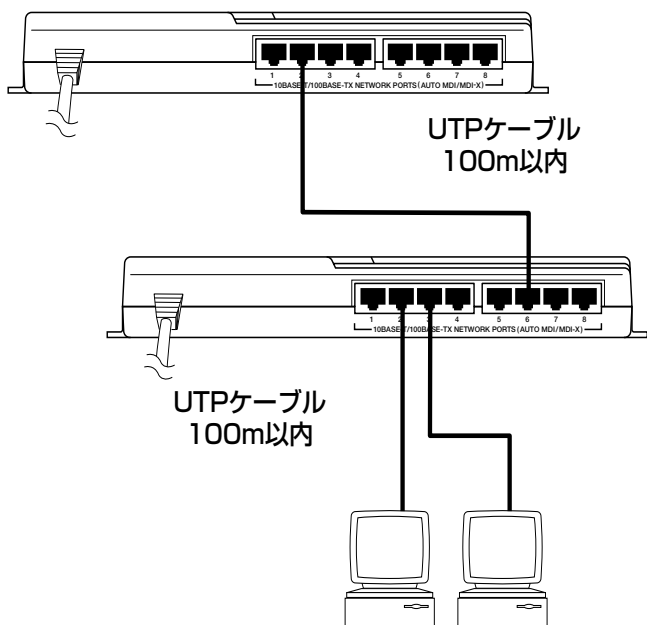
本製品は単純なスタンドアローンの環境で使用することができます。本製品とコンピューター間の UTP ケーブルの長さは 100m 以内です。



カスケード接続

本製品は MDI/MDI-X 自動切替対応 (*) の製品なので、どのポートでもケーブルタイプ (ストレート / クロス) に関わらずカスケード接続を行うことができます。カスケード接続を行うには、本体下面の任意のポートに UTP ケーブル (ストレート / クロス) を接続し、UTP ケーブルのもう一方の端を、接続先の機器の 10BASE-T/100BASE-TX ポートに接続します。

*オートネゴシエーション選択時のみ有効。



1.5 接 続

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232 ストレートケーブルで、本体側面ターミナルポートとコンソール側の RS-232 コネクタを接続します。

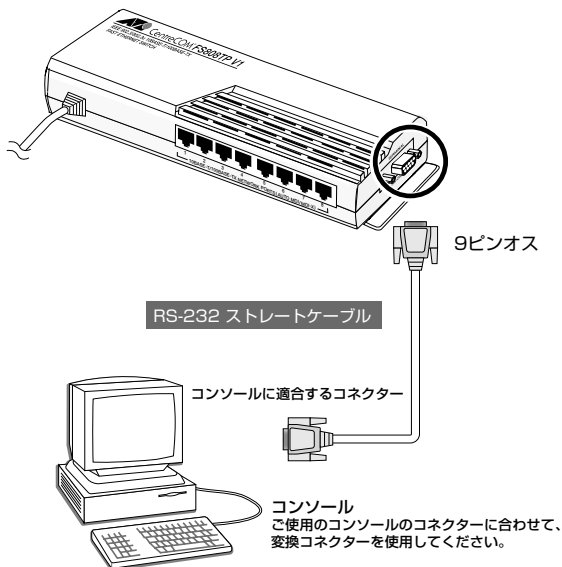
i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、次章の「2 ソフトウェアの設定」で説明します。

コンソール

コンソールは、VT-100 互換のターミナルエミュレーターを実行する RS-232 コネクタ付きコンピューター、または RS-232 コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

ケーブル

ケーブルは、RS-232 ストレートケーブルを使用します。

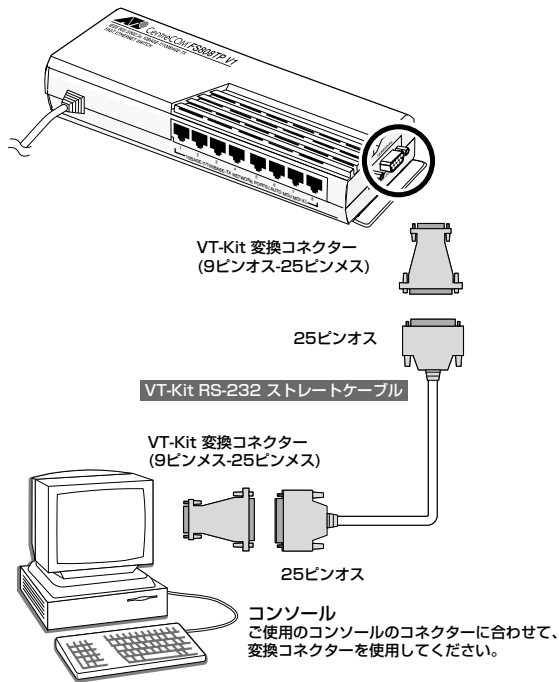


VT-Kit を使用する場合

弊社では、コンピューターをコンソールとして使用するための VT-100 エミュレーションと RS-232 ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

弊社 VT-Kit を使用する場合は、図のように本製品とコンソールを接続します。VT-Kit は、PC-9800 シリーズ、および DOS/V 機のいずれのコンピューターでもご使用いただくことができます。

- セット内容：
- ・RS-232 ストレートケーブル（25 ピンオス-25 ピンオス）
 - ・各種変換コネクタ－
 - ・VTTERM（MS-DOS 版端末エミュレーション）



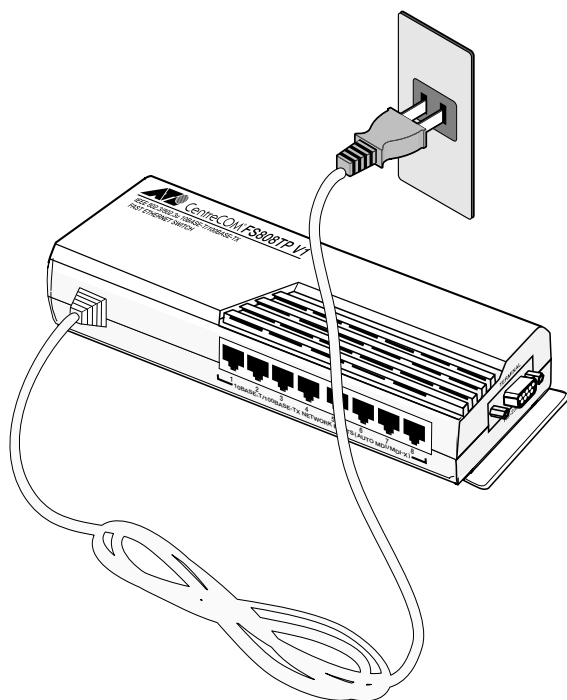
1.5 接 続

電源ケーブルを接続する

本製品は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

本体の起動

電源ケーブルのプラグを電源コンセントに差し込むと起動します。電源プラグをはずすと停止します。



2

ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

2.1 ターミナルソフトの設定

コンピューターなどをターミナルとして使用するためのターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、次の2つの設定方法を説明します。
(RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続します。)

- 弊社 VTTERM
- Windows95/98/Me/2000/XP、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」

VTTERMの設定

VTTERM(VT-Kit) を使用する場合には、MS-DOS プロンプト（コマンドプロンプト）から次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。

C: ¥>**VTTERM**

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERM のターミナル設定は、デフォルトで本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。
[Esc] キーを押すと、ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

「ハイパーターミナル」の設定

Windows95/98/Me/2000/XP、Windows NT が動作するコンピューターなどでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備のハイパーターミナル (Hypertrm.exe) を使用することができます。



Windows Me をご使用の場合、「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしておく必要があります。

[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロールパネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

[Windows ファイル] タブをクリックし、[コンポーネントの種類] ボックスで [通信] をクリックします。次に [詳細] をクリックし、[コンポーネントの種類] ボックスで [ハイパーターミナル] のチェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

以上で「ハイパーターミナル」がインストールされます。

- 1 ハイパーターミナルを起動します。

Windows 95 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。次に Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows 98 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックし、Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows Me/2000/XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム (すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。

Windows NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

2.1 ターミナルソフトの設定

- 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

- 3 接続方法を設定します。

Windows 95 の場合 - [電話番号] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows 98/Me/2000 の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XP の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

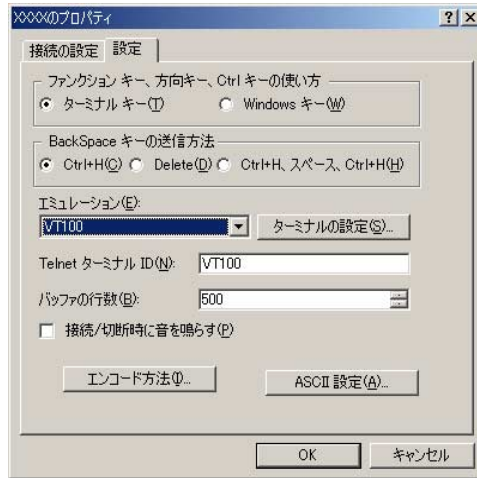
Windows NT の場合 - [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[ポートの設定] タブの [接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

- 4 「COM1のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。
下図のように設定して、[OK] をクリックします。



- 5 「XXX- ハイパーターミナル (HyperTerminal)」 のような、手順 2 で設定した名前のウィンドウが表示されます。

[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。



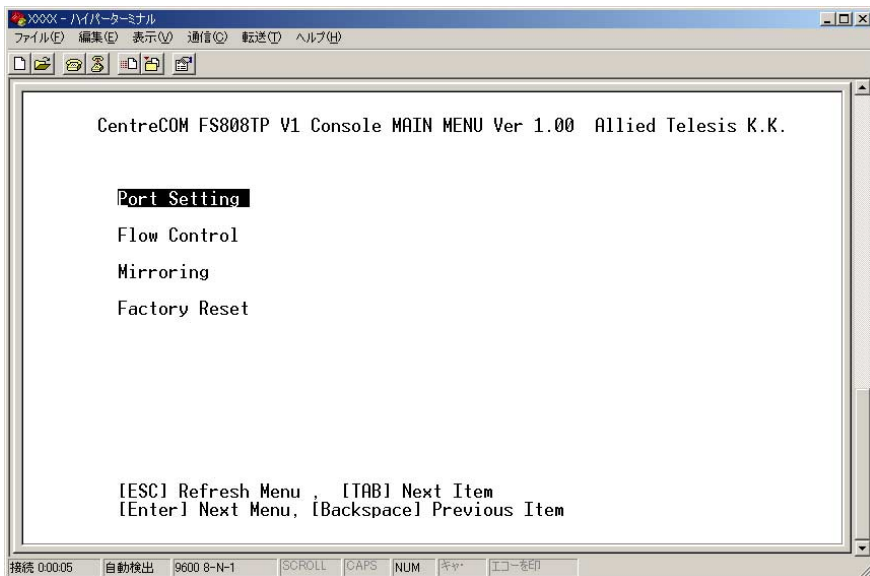
6 以上で設定が終わりました。

[Esc] キーを押すと、ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表示されます。

2.2 メニュー設定

メインメニュー

ここでは本製品の内蔵ソフトウェアを使って各種設定を行う方法を説明します。本製品のメインメニューには、4 項目のサブメニューが表示されます。各サブメニュー項目と設定内容の概要を、項目別に説明していきます。



設定画面の操作方法

メインメニューの操作方法を説明します。設定コマンドキーの説明は画面の最下部に表示されます。

- (1) [ESC] メインメニューを再表示します。
- (2) [TAB] 次の項目に移動します。
- (3) [Enter] サブメニューに移動します。
- (4) [Backspace] 前の項目に移動します。

次にサブメニューの操作方法を説明します。ここでは「ポート設定サブメニュー」画面を例にします。

- (1) [ESC] 前のページに移動します。
- (2) [TAB] 次の項目に移動します。
- (3) [Space] 設定内容の切り替え、選択を行います。
- (4) [Enter] 設定内容を確定します。
- (5) [Backspace] 前の項目に移動します。

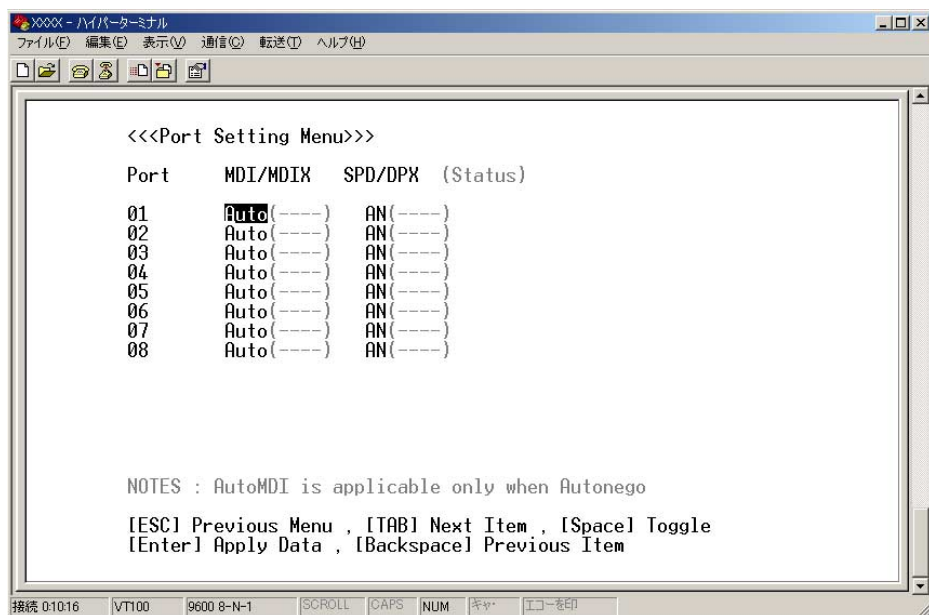


本製品の設定が有効になるのは、各設定項目ごとに設定を行い、[Enter] キーで確定した時点からです。電源をいったん切るなど再起動の必要はありません。

2.2 メニュー設定

ポート設定サブメニュー - Port Setting Menu

メインメニューの「Port Setting」のところで[Enter]キーを押すと、ポート設定サブメニューが表示されます。



各ポート(1～8)の「MDI/MDI-X」と通信モードを設定します。デフォルトは「Auto/AN」です。

- カーソルは、「ポート 1」・「MDI/MDIX」にあります。ここから変更を行います。デフォルトは「Auto」で、[Space]キーを押すと、「MDI/MDIX/Auto」と値が変わります。ここで必要なモードに設定してください。モードの設定が終わったら、[Enter]キーを押し、設定を適用します。

MDI : コンピューターと本製品とをクロスケーブルで接続します。

MDIX : コンピューターと本製品とをストレートケーブルで接続します。

Auto : コンピューターと本製品との間をストレートケーブル / クロスケーブルのどちらでも接続できます。



MDI/MDI-X 自動切替機能が利用可能になるのは、「SPD/DPX」で「AN」(オートネゴシエーション)を選択したときのみになります。

- MDI/MDI-X 自動切替機能が「Auto」のとき、「SPD/DPX」の設定を行うことはできません。
- MDI/MDI-X 自動切替機能を「Auto」にすると、「SPD/DPX」は自動的に「AN」（オートネゴシエーション）の設定になります。

2 [Tab] キーを押し、カーソルを移動させます。カーソルが一つ移動して、「ポート 1」・「SPD/DPX」に移動します。ここで通信モードを設定します。
[Space] キーを押すと、「100F/100H/10F/10H/AN」の順に値が変わります。ここで必要な値を選択し、[Enter] キーを押して設定します。デフォルトは「AN」（オートネゴシエーション）です。

- 100F : 通信速度 100Mbps、デュプレックス Full Duplex（全二重）固定になります。
- 100H : 通信速度 100Mbps、デュプレックス Half Duplex（半二重）固定になります。
- 10F : 通信速度 10Mbps、デュプレックス Full Duplex（全二重）固定になります。
- 10H : 通信速度 10Mbps、デュプレックス Half Duplex（半二重）固定になります。
- AN : 接続先の通信機器に応じて、通信速度（10/100Mbps）デュプレックス（Half Duplex/Full Duplex）を自動検出し、最適な設定で接続します。

i 通信モードは、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

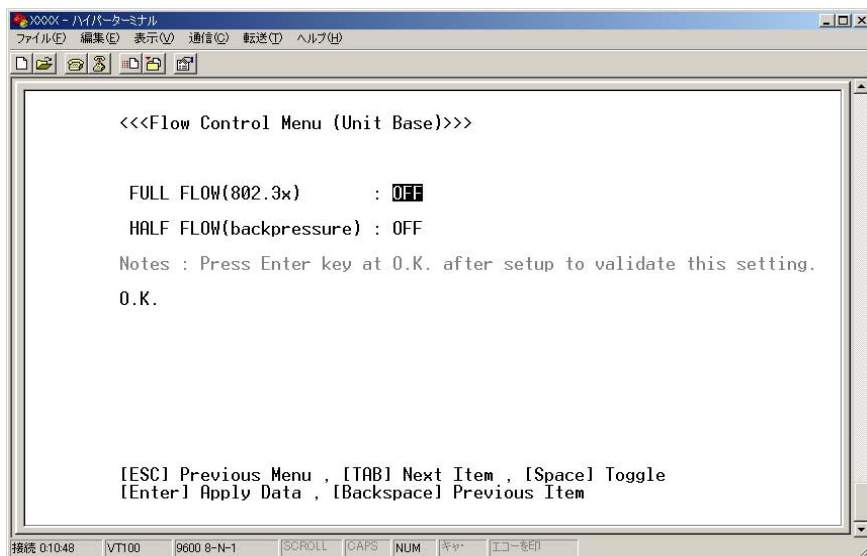
相手ポート FS808TP V1 自ポート		10M		100M		Auto
		Half	Full	Half	Full	
10M	Half	○	—	—	—	○
	Full	—	○	—	—	—
100M	Half	—	—	○	—	○
	Full	—	—	—	○	—
Auto		○	—	○	—	○

3 以上でポート 1 の「MDI/MDIX」と通信モードの設定が終わります。以下、ポート 2 からポート 8 についても同様に、[Tab] キーを押してカーソルを移動しながら、設定を行ってください。
設定は、各項目を選択した後、[Enter] キーを押すと有効になります。

2.2 メニュー設定

フローコントロール設定サブメニュー - Flow Control Menu

フローコントロールの有効、無効を設定します。デフォルトは「OFF」です。



フローコントロール機能とは、同一スイッチ内で受信ポートの転送速度が送信ポートの転送速度を上回る場合や、受信したパケットの送出が特定のポートに集中する場合などに、バッファのオーバーフローによるパケットロス未然に防ぐための機能です。バッファメモリを監視し、空きが減少してくると、Half Duplex 時はジャム信号を、Full Duplex 時は PAUSE フレームを受信ポートから送出し、接続機器からの送信を一時的に停止させることで、フロー制御を行います。

- 1 Full Duplex 時にフローコントロール機能を有効にするときは、「FULL FLOW(802.3x)」を「ON」に、Half Duplex 時に有効にするときは、「HALF FLOW(backpressure)」を「ON」にしてください。「ON」と「OFF」の切り替えは [Space] キーで行うことができます。
- 2 設定内容を有効にするために、[Tab] キーで「O.K.」まで移動させ、[Enter] キーで確定してください。設定内容は、このキーを押してはじめて有効になります。



フローコントロールの設定をこのメニューで行うと、設定内容は本製品のすべてのポートに適用されます。



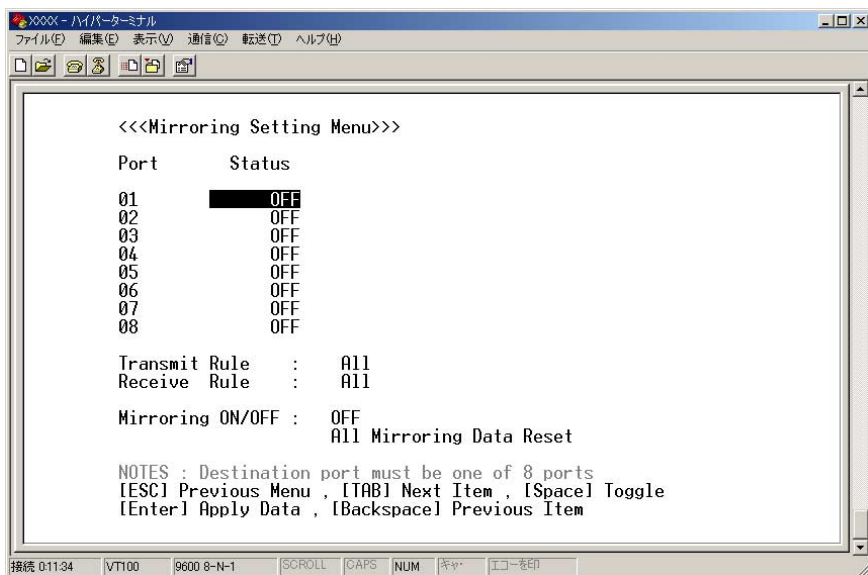
Full Duplex 時のフローコントロールは、接続先の機器も IEEE802.3x Flow Control 準拠の機器をサポートし、両機器がオートネゴシエーションで接続されている場合に限り機能します。

2.2 メニュー設定

ミラーリング設定サブメニュー - Mirroring Setting Menu

任意のポートを通過するトラフィックを、指定した別のポートにコピーし、接続したモニタリング用のデバイスを通じて、パケット解析を行うことができます。障害の多発するポートやその他の問題の解析に有効です。

本製品では、ミラーリングするパケットを MAC アドレスによって指定することもできます。



- 1 ミラーポート (Destination port) を指定します。

メニューの初期画面では、「ポート 1」の「Status」にカーソルがあります。[Tab] キーを押すとカーソルが移動し、ポート 2 からポート 8 までを設定することができます。

[Tab] キーを押してポートを移動し、[Space] キーを押すと、値「Dest/Src(Both)/Src(Rx)/Src(Tx)」がひとつずつ変わります。ミラーポートに決定するためには「Dest」を選択します。

- 2 ソースポートを指定します。

まず [Tab] キーを押してポートを移動し、ひとつあるいは複数のポートを選択し、[Enter] キーを押します。

そのあと、[Space] キーを押して、「Src(Both)/Src(Rx)/Src(Tx)」の順に値を変えながら、ソースポートの指定を行います。値を確定するには、[Enter] キーを押します。

Src(Both) : 受信パケット・送信パケット両方のミラーリングを有効にします。

Src(Rx) : 受信パケットのミラーリングを有効にします。

Src(Tx) : 送信パケットのミラーリングを有効にします。

- 3** 「Transmit Rule」で、ミラーリングする送信パケットの条件を指定します。

「Transmit Rule」まで [Tab] キーでカーソルを移動させてから、[Space] キーを押すと、「Dest/Src/All」の順に値が変わります。これらの値のうち、必要なものを指定してから、[Enter] キーを押して条件を確定します。

Dest : パケットの宛先 MAC アドレスを指定する場合に選択します。

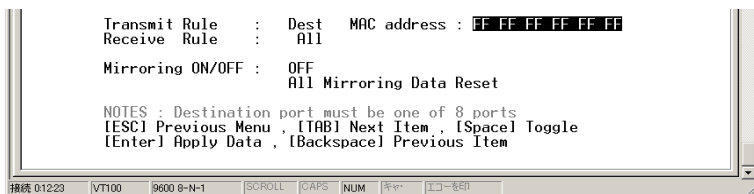
Src : パケットの送信元 MAC アドレスを指定する場合に選択します。

All : すべてのパケットをミラーリングする場合に選択します。

- 4** ミラーリングする送信パケットの MAC アドレスを指定します。(手順 **3** で「Dest/ Src」のいずれかを選択した場合のみ)

手順 **3** にしたがって送信パケットの条件を「Dest」あるいは「Src」に指定し、[Enter] キーを押すと、カーソルが MAC アドレス入力欄に移動します。ここで指定する送信パケットの MAC アドレスを入力します (デフォルト値は、FF FF FF FF FF FF)。入力の後、[Enter] キーを押して、アドレスを確定します。

i MAC アドレスを入力する際、数値は 16 進数で入力し、1Byte おきにスペースを空けてください。スペースを空けないと、入力した数値は有効になりません。



- 5** 「Receive Rule」で、ミラーリングする受信パケットの条件を指定します。

「Receive Rule」まで [Tab] キーでカーソルを移動させてから、[Space] キーを押すと、「Dest/Src/All」の順に値が変わります。これらの値のうち、必要なものを指定してから、[Enter] キーを押して条件を確定します。

Dest : パケットの宛先 MAC アドレスを指定する場合に選択します。

Src : パケットの送信元 MAC アドレスを指定する場合に選択します。

All : すべてのパケットをミラーリングする場合に選択します。

- 6** ミラーリングする受信パケットの MAC アドレスを指定します。(手順 **5** で「Dest/ Src」のいずれかを選択した場合のみ)

手順 **5** にしたがって受信パケットの条件を「Dest」あるいは「Src」に指定し、[Enter] キーを押すと、カーソルが MAC アドレス入力欄に移動します。ここで指定する受信

2.2 メニュー設定

パケットの MAC アドレスを入力します（デフォルト値は、FF FF FF FF FF FF）。入力の後、[Enter] キーを押して、アドレスを確定します。

7 ミラーリング機能を有効にします。

「Mirroring ON/OFF」までカーソルを移動し、[Space] キーで「ON」を選択し、[Enter] キーを押して、設定を有効にします。設定を無効にするには [Space] キーで「OFF」を選択し、[Enter] キーを押します。



本製品では、ミラーリングの際に用いられるミラーポートは 1 ポートのみ、ソースポートは複数のポートを設定することができます。



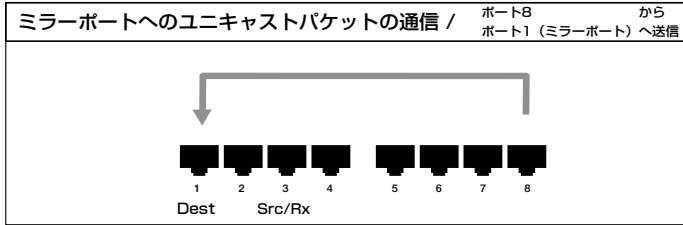
ミラーリングを行う際、複数のソースポートから合計して 100Mbps 以上のパケットがコピーされても、ミラーポートではデータのロスが生じます。



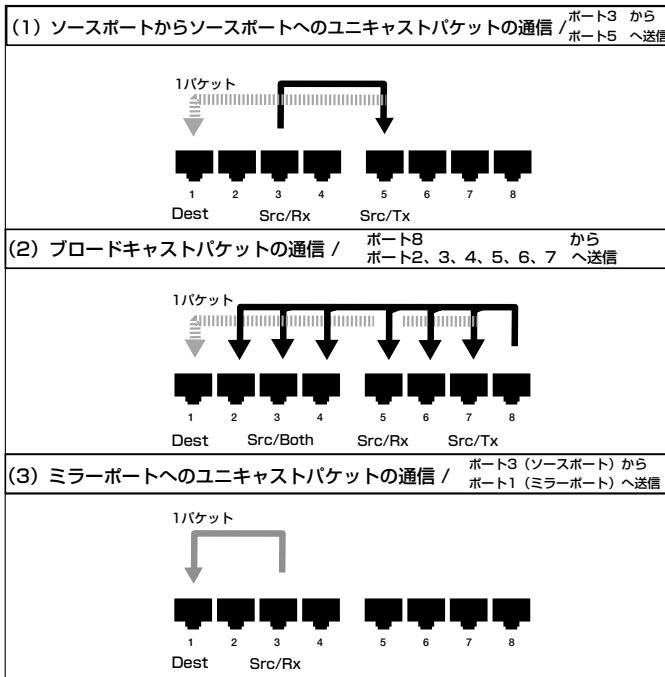
本製品でミラーリング機能を有効にするには、1 つのミラーポートと 1 つ以上のソースポートを設定する必要があります。



ミラーリング機能が「ON」になっていても、受信パケット（ミラーポートに接続されたコンピューター宛のユニキャストパケット）があった場合には、ユニキャストパケットがフォワードされます。

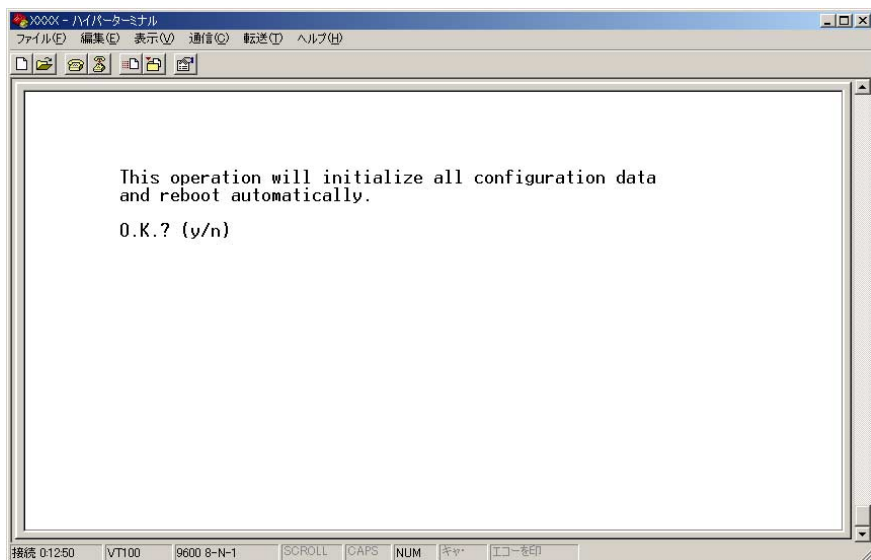


i 本製品において、複数のソースポートでパケットがミラーリングの対象となった場合 [(1)、(2)]、またはミラーポート宛でのユニキャストパケットがミラーリングの対象となった場合 [(3)]、ミラーポートへは 1 パケットのみコピーされます。



2.2 メニュー設定

工場出荷時設定にリセット - Factory Reset



1 メインメニューで「Factory Reset」を選択します。

工場出荷時設定にリセットの確認画面が表示されます。

2 「y」(Yes) または 「n」(No) を入力します。

EEPROMの初期化が始まり、設定済みの内容が工場出荷時の初期値にリセットされます。

デフォルト設定

ポート設定	
MDI/MDIX	Auto (自動切替)
SPD/DPX	AN (オートネゴシエーション)
フローコントロール設定	
FULL FLOW(802.3x)	OFF
HALF FLOW(backpressure)	OFF
ミラーリング設定	
Port Status	OFF
Transmit Rule	All
Receive Rule	All
MAC address	FF FF FF FF FF FF
Mirroring ON/OFF	OFF

3

付 録

この章では、トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

3.1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルや LED の状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

本製品の状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
LINK/ACT	緑	点灯	リンクが確立しています。
		消灯	リンクが確立していません。
		点滅	パケットの送受信中です。
100M	緑	点灯	100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。
FULL	緑	点灯	Full Duplexで動作しています。
		消灯	Half Duplexで動作しています。
POWER	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

電源を投入したが、POWER LED が点灯しない

- 電源ケーブルが、正しく接続されていますか。
- 電源ケーブルに断線などはありませんか。
- 指定された電源電圧を使用していますか。

ネットワークケーブルを接続してもLINK LED が点灯しない

- 接続先の機器に電源は投入されていますか。
- 通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか。
- 正しい UTP ケーブルを使用していますか。

10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

- UTP ケーブルの長さが制限を越えていませんか。

10BASE-T/100BASE-TX の場合、ケーブル長は最大 100m と規定されています。

通信が正常に行われない

- マグネットと設置面との磁束の影響を受けていませんか。

マグネットを設置する面によっては、通信不良が起こる場合がまれにあります。そのときは、設置する面を変更してください。

以上の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシスサポートセンターまでご連絡ください。

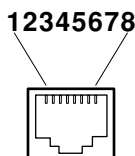
3.2 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

コネクタ / ケーブル仕様

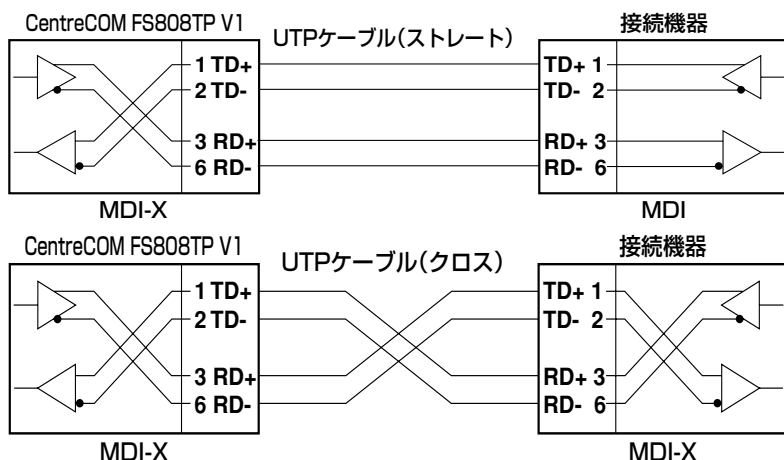
10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

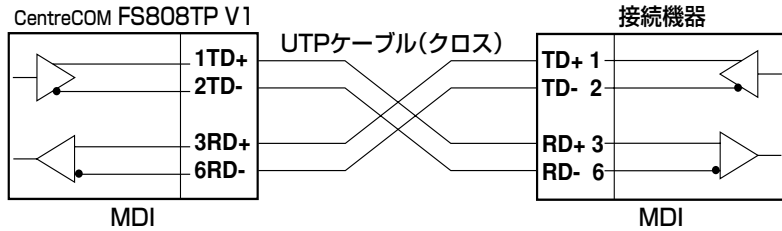
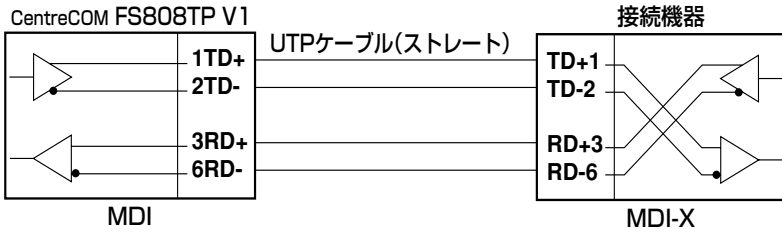
RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	MDI-X信号	MDI信号
1	RD+ (受信)	TD+ (送信)
2	RD- (受信)	TD- (送信)
3	TD+ (送信)	RD+ (受信)
4	未使用	未使用
5	未使用	未使用
6	TD- (送信)	RD- (受信)
7	未使用	未使用
8	未使用	未使用

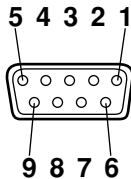
ケーブルの結線は下図のとおりです。





RS-232 インターフェース

D-Sub 9 ピン (メス) タイプのコネクタを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TX)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	NOT USED	未使用
5	SG (SG)	信号用接地
6	NOT USED	未使用
7	NOT USED	未使用
8	NOT USED	未使用
9	NOT USED	未使用

3.2 仕様

本製品の仕様

サポート規格	
	IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3x Flow Control
適合規格	
EMI規格	VCCI クラス B
安全規格	UL60950、CSA-C22.2 No.60950
転送モード	
	ストア& フォワード方式
メモリー容量	
パケットバッファ	256KByte (スイッチングチップに内蔵)
MACアドレス登録数	
	4K (最大)
MACアドレス保持時間	
	300秒
電源部	
定格入力電圧	AC100-120V
入力電圧範囲	AC90-132V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	0.13A
平均消費電力	5.7W (最大6.5W)
平均発熱量	4.9kcal/h (最大5.6kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	265 (W) × 67 (D) × 37 (H) mm
重量	
	410g

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

4.1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を（拡大）コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金（祝・祭日を除く）

9:00～12:00

13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

4.2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。

ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェアについて

- 製品名、シリアル番号 (S/N)、リビジョン (Rev) を調査依頼書に記入してください。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている（本体背面に貼付されている）シリアル番号シールに記入されています。

(例)



お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

